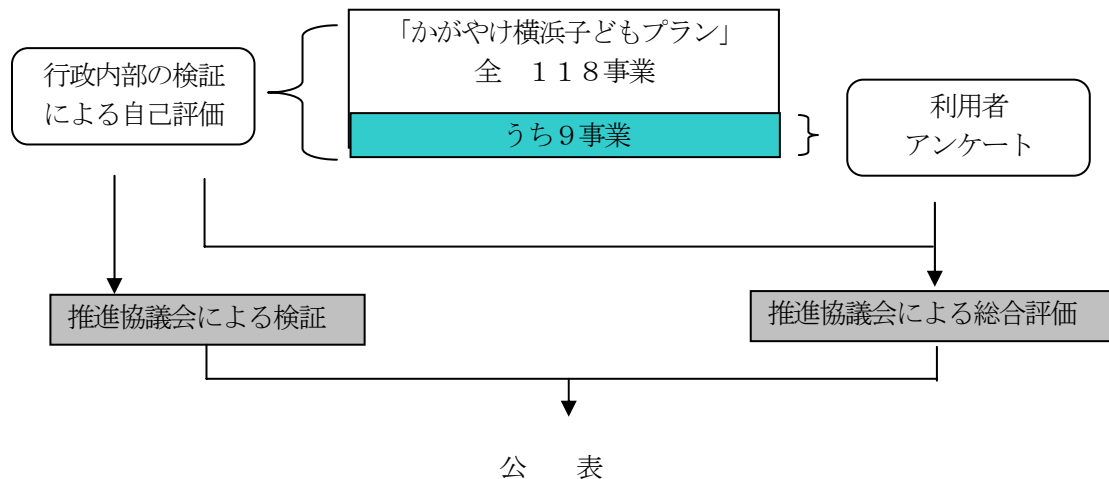


かがやけ横浜子どもプラン
(横浜市次世代育成支援行動計画)

平成 17 年度事業評価
～行動計画推進協議会による「総合評価」～

「かがやけ横浜子どもプラン」平成17年度事業の事業評価について

- ◆事業評価は、プランの全事業について、行政内部による自己評価を実施
- ◆うち9事業について、利用者の評価を計るため、アンケート調査を実施



総合評価について

【評価方法】

全118事業のうち、9事業について利用者等を対象としたアンケートを実施し、

- ① 事業の達成目標と達成状況、②行政内部の検証作業による自己評価の状況、
- ③アンケート結果を複合的に判断して総合評価を行いました。

【利用者アンケートの概要】

① 調査対象者

調査期間中に、対象事業を利用した者

② 主な調査内容

事業への評価、設備・料金等について、今後の利用意向 等

③ 調査方法

実施施設において、利用者へ調査票（返信用封筒入り）を配布。

記入済みの調査票を利用者より直接郵送にて返送

※ 家庭教育学級においては、学級実施日当日に直接配布・回収し、実施校より返送。

※ ●印については既存調査結果を活用

対象事業	実施施設数	調査期間	回収数
①-6 親と子のつどいの広場	全14施設	18年8/28(月) ~9/8(金)	209
④-1-(2) 横浜保育室の推進●	全134施設	18年2月	3,473
④-2-(2) 休日・年末年始保育の実施	全4施設	18年8/28(月) ~9/18(月祝)	26
④-2-(3) 一時保育の拡充	全161施設	18年9/1(金) ~9/8(金)	412
④-2-(4) 24時間型緊急一時保育	全2施設	18年8/28(月) ~9/8(金)	24
④-2-(5) 病児・病後児保育	全3施設	18年8/28(月) ~9/8(金)	52
⑤-3 家庭教育学級開設事業の推進	8校	学級実施日	281
⑥-1、⑦-1 放課後キッズクラブ、はまっ子ふれあいスクール、放課後児童クラブ●	放課後キッズクラブ全18校	18年3月	児童3,786 保護者3,755
⑧-1 放課後児童育成施策の推進 (はまっ子ふれあいスクール充実型)	はまっ子ふれあいスクール充実型全11施設	18年8/28(月) ~9/8(金)	406
⑥-2、⑧-2 プレイパークの設置の推進●	うさぎ山公園近隣小学校2校	18年3月	児童1,122 保護者183 来園者106

事業名	①-6 親と子のつどいの広場の拡充
担当局・課名	こども青少年局 地域子育て支援課
かがやけ横浜子どもプランでの位置づけ	第1の基本目標 「子育てを地域全体で支援する地域力を創る」 ①子育てに関する情報提供・相談・居場所の機能を持つ、地域の子育て 支援の総合的な拠点が設置されている。

目標水準・内容 等	目標水準		
	H16年度	H17年度 実績	H21年度
地域の中で、子育て相談や親子の交流の場、子育て情報の提供などを行う市民活動団体が開催する広場を充実します。	9か所	12か所	24か所

平成17年度の達成目標	つどいの広場を新たに3か所、開設します。助成金額を開設日数・開設時間に応じた算定に見直します。
-------------	---

行政内部の検証作業による自己評価	計画どおり、新たな広場を3か所開設し、活動状況に応じて助成を行いました。	B
	(事業進捗上の課題) ■1区1か所は開設できるよう目標水準を定めていますが、公募により実施しているため計画的に各区に配置できるかが課題です。 ■一日の利用者数の平均が、最多施設で33人、最少で6人、平均16人とばらつきがあります。広場は、運営体制にそれぞれ特徴があり、利用者数のみで効果を判断できませんが、利用促進を図る必要があります。	

【総合評価】

① 事業の達成目標と達成状況、②自己評価の状況、③利用者アンケート結果を複合的に判断

委員からの主な意見	<p>○設置数の増が必要ではないか。</p> <p>○親子のための施設としてだけでなく、様々な世代が広く子どもに関われる場として活用すれば、子育て支援に関わるきっかけづくりになるのではないか。</p> <p>○既存の交流の場、相談窓口との連携により、いっそう効果が期待できるのではないか。</p> <p>○地域子育て支援拠点との役割分担が必要である。</p> <p>○運営の担い手となる団体の育成が必要。</p> <p>○公共施設の活用などにより経費の削減を図って広く展開してほしい。</p> <p>○利用料の無料化についてはより検討が必要。補助金が少ない中での自主財源確保、無料化して利用者が増えた場合のスペースなど様々な課題がある中、無料化を課題として取り上げることは適当でない。(追加意見)</p>
-----------	--

総合評価	<p>■計画どおり、新たに3か所開設するとともに、開設日数・開設時間等の活動状況に応じた助成が行われましたが、次のような課題がありました。</p> <p>(事業進捗上の課題、目標に達しなかった理由・問題点、改善の方向性)</p> <p>■交流や相談、情報提供の機能を持つ地域子育て支援の場を、徒歩で行ける身近な範囲に設置していく必要があります。各区に計画的に配置していくため、運営の担い手となる人材の育成も必要です。</p> <p>■様々な世代の参加や、関連機関や他の支援事業とのネットワーク強化なども含めて、効果的な地域子育て支援のあり方について、検討が必要です。</p> <p>■一日の利用者数が、6人程度の施設や、30人を超える施設があり、施設の規模や運営体制にもよりますがばらつきがあります。利用促進を図るため、市民への周知を強化する必要があります。</p>	<p>「A」：計画を上回って実行</p> <p>「B」：計画どおり</p> <p>「C」：目標に達しなかった、計画を実行できなかった</p>
	<p>【利用者アンケート結果から】</p> <p>■サービス全体については利用者の9割以上が満足しており、施設や設備、スタッフに対する評価も高く、利用者から高い評価を得ていることが伺えました。</p> <p>■利用者の約半数が週1回以上利用しており、9割近くが今後も利用したいとしているなど、身近な親子の居場所としての役割を果たしていることがわかりました。</p> <p>■今後望むこととしては、情報提供、利用者同士の情報交換の場など、情報面の支援の拡充を求める声があがっています。</p>	B

事業名	④-1-(2) 横浜保育室の推進
担当局・課名	こども青少年局 保育計画課、保育運営課
かがやけ横浜子どもプランでの位置づけ	第1の基本目標 「子育てを地域全体で支援する地域力を創る」 ④多様な保育サービスが充実している。

目標水準・内容 等	目標水準		
	H16年度	H17年度 実績	H21年度
低年齢児の保育ニーズに対応するため、引き続き運営費助成を行います。新規認定については、地域毎のニーズを十分見極めながら進めます。	推進	134 施設 4,141 人	推進

平成 17 年度の達成目標	低年齢児の保育ニーズに対応するため、引き続き運営費を助成します。 また、新規認定については、地域ごとのニーズを十分見極めながら進めます。 (施設数 137 施設、定員数 4,266 人)
---------------	---

行政内部の検証作業による 自己評価	認可保育所の整備状況等を考慮し、5 施設（定員 129 人）を新規認定しました。[増減 5 ▲ 8]（施設数 134 施設、定員数 4,141 人）	B
	(事業進捗上の課題) <ul style="list-style-type: none"> ■低年齢児の保育ニーズは高まっていますが、待機児童の解消に向け認可保育所の整備を進める中で、定員割れによる経営難などで閉所する横浜保育室も出ています。新規認定についてはニーズを見極めながら進める必要があります。 ■待機児童の解消にも十分効果をあげています。横浜保育室の助成内容については、17 年 4 月の認可保育所保育料改定時に、横浜保育室保育料の上限を据え置いたことの効果等をみながら、今後検討する必要があります。 	

【総合評価】

② 事業の達成目標と達成状況、②自己評価の状況、③利用者アンケートの結果を複合的に判断

委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ○保育料や施設・整備など、認可保育所との事業内容の差が課題である。 ○認可保育所への移行を促進するとともに、認定については慎重に行う必要がある。 ○低年齢児保育の受け皿として必要性があると考えられるが、需要があるのに定員割れする施設がある理由を検証する必要がある。 ○認可保育所のように第三者評価を進めてほしい。
-----------	---

総合評価	<p>■認可保育所の整備状況等を考慮し、5 施設（定員 129 人）を新規認定しましたが、次のような課題がありました。〔増減 5 ▲ 8〕（施設数 134 施設、定員数 4,141 人）</p> <p>（事業進捗上の課題、目標に達しなかった理由・問題点、改善の方向性）</p> <p>■待機児童の解消に向け認可保育所の整備を進める中で、定員割れによる経営難などで閉所する横浜保育室もあり、新規認定について慎重に進めたため、施設数、定員数ともに若干計画を下回りました。今後も、新規認定については、低年齢児童の待機児童解消への効果などを検証し、ニーズを見極めながら進める必要があります。</p> <p>■保育料や施設・設備について、利用者の民ニーズを踏まえながら、今後のあり方を検討していく必要があります。</p> <p>■19 年から開始予定の横浜保育室の第三者評価について、受審を促進するため施設に働きかけていただきたい。</p> <p>■横浜保育室の対象から外れる 3 歳児の認可保育所等へ移行について、空きがないなど待機児童となる恐れがないか受け入れ状況を検証し、対応を充実させていく必要があります。</p>	<p>「A」：計画を上回って実行</p> <p>「B」：計画 どおり</p> <p>「C」：目標に 達しなかった、計画を実行できなかった</p>
	<p>【利用者保護者アンケート結果から】</p> <p>■サービス全体について 9 割近くが満足しています。満足している点としては、「子どもの発達に合わせた活動内容」「子どもが落ち着いてすごせる環境」「急な利用時間の延長等への対応」などがあがっており、小規模施設ならではのきめ細かなサービスについて高い評価を得ています。</p> <p>■今後の希望・要望として、月額保育料の値下げや、施設・設備の充実などがあがっています。</p>	B

事業名	④-2-(2) 休日・年末年始保育の実施
担当局・課名	こども青少年局 保育運営課
かがやけ横浜子どもプランでの位置づけ	第1の基本目標 「子育てを地域全体で支援する地域力を創る」 ④多様な保育サービスが充実している。

目標水準・内容 等	目標水準		
	H16年度	H17年度 実績	H21年度
需要の規模や必要度が地域的に散在する傾向があると思われるため、広域的な利用が可能となるよう、ターミナル駅等利便性の高い場所を念頭に実施施設を拡充します。	1か所	休日・ 年末年始 3か所 年末 2か所	10か所

平成17年度の達成目標	日曜・祝日等の保育ニーズに対応するため、休日・年末年始保育を実施します。 【5か所】 休日・年末年始 民間2か所、公設民営1か所 年末保育 市立2か所
-------------	---

行政内部の検証作業による自己評価	計画どおり、市立保育園2園で年末保育を実施し、民間保育園2か所、公設民営保育園1か所で休日・年末年始保育を実施しました。	B
	(事業進捗上の課題) 一日の利用者数の平均が、サービス開始時期もありますが、多い施設で10名程度、開始したばかりの施設では2名程度と、ばらつきがあります。年末年始保育は、市内に3か所と施設数が少ないため、今後も施設の設置を進めるとともに、利用促進を図るため、市民への周知などが今後の課題となります。	

【総合評価】

③ 事業の達成目標と達成状況、②自己評価の状況、③利用者アンケートの結果を複合的に判断

委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ○設置数が少ない。 ○市内の交通条件を考慮した配置を心がけ、需要を見ながら対応してほしい。
-----------	--

総合評価	<p>■市立保育所、民間保育所ともに、計画どおり実施されましたが、次のような課題がありました。</p> <p>(事業進捗上の課題、目標に達しなかった理由・問題点、改善の方向性)</p> <p>■一日の利用者数の平均が、サービス開始時期の違いもありますが、多い施設で10名程度、開始したばかりの施設では2名程度と、ばらつきがあります。市内に3か所と施設数が少ないため、今後も施設の設置を進めるとともに、利用促進を図るため、市民への周知などが必要です。また、設置にあたっては、交通便利性や地域の需要を考慮しながら進めていただきたい。</p> <p>■サービス業従事者の増加など休日に働く人が増えたことも考慮し、利用者のニーズを踏まえながら、開始時間についても検討する必要があります。</p>	<p>「A」：計画を上回って実行</p> <p>「B」：計画どおり</p> <p>「C」：目標に達しなかった、計画を実行できなかった</p>
	<p>【利用者保護者アンケート結果から】</p> <p>■サービス全体について利用者の8割以上が満足していました。また、9割近くが今後も利用したいとしており、高い評価を得ていることが伺えました。</p> <p>■利用の理由は、「仕事」が9割を超えています。8時間以上の長時間利用が7割を超え、定期的に利用している人も多くみられました。</p> <p>■料金については、約半数が妥当としています。高いとしている人も2割を超えています。</p> <p>■今後の希望としては、仕事を理由に利用する人が多いことから、保育時間の延長があがっています。</p>	B

事業名	④-2-(3) 一時保育の拡充
担当局・課名	こども青少年局 保育運営課
かがやけ横浜子どもプランでの位置づけ	第1の基本目標 「子育てを地域全体で支援する地域力を創る」 ④多様な保育サービスが充実している。

目標水準・内容等	目標水準		
	H16年度	H17年度実績	H21年度
核家族化の進展や育児ストレスの増大などから、一時保育のニーズは大きくなっており、実施施設の拡充を図ります。	82か所	120か所	227か所

平成17年度の達成目標	保護者のパート就労や疾病、入院等により一時的に家庭での保育が困難となる場合や、保護者の育児不安の解消を図り、負担を軽減するために児童を保育します。 139か所(市立19か所、民間120か所)
-------------	--

行政内部の検証作業による自己評価	120か所(市立19か所(公設民営2か所を含む) / 民間101か所) で実施しました。 市立保育所では目標どおりの実施となりましたが、民間保育所では、昨年実績と比較して24か所増となり、目標としていた120か所には到達できませんでした。新規開所施設において、入所児童の保育に影響が出ないように一時保育の実施を見合わせたことなどが原因と考えられます。	C
	(事業進捗上の課題) ■一日の利用者数の平均が10人近い施設や、年間を通して数十人の利用しかない施設があり、施設の立地条件や規模にもよりますが利用者数にばらつきがあります。身近な場所で利用できるよう施設の拡充を図るとともに、市民への周知を強化し利用促進を図る必要があります。 ■民間保育所では、待機児童が解消されていない中、一時保育事業の拡充は難しい面もあります。新規開設園が多く一時保育事業を実施する余裕がない面もあると思われます。	

【総合評価】

④ 事業の達成目標と達成状況、②自己評価の状況、③利用者アンケートの結果を複合的に判断

委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な場所で利用できるよう、実施施設を増やしてほしい。 ○登録者の体験入園などにより、施設・職員へ慣れる機会を設けるとよいのではないか。 ○市民への周知方法はどうなっているのか。母子手帳へは盛り込まれているのか。
-----------	---

総合評価	<p>■120か箇所（市立19か所（公設民営2か所を含む）／民間101か所）で実施しました。市立保育所では目標どおり19か所で実施しましたが、民間保育所では、昨年より24か所増となり、目標120か所には到達できませんでした。</p> <p>（事業進捗上の課題、目標に達しなかった理由・問題点、改善の方向性）</p> <p>■就労形態の多様化により、一時保育のニーズがさらに高まる可能性もあることも考慮する必要があります。待機児童が解消されていない中、一時保育事業の拡充は難しい面もありますが、在宅の子育て家庭などが身近な場所で利用できるよう、今後も引き続き実施施設の拡充を図ることが望まれます。</p> <p>■施設の見学や「ならし保育」の実施など、事前に利用児童が施設や職員に慣れる機会が求められます。</p> <p>■一日の利用者が10人近い施設や、年間を通して数十人の利用しかない施設がありばらつきがあります。市民への周知を強化し利用促進を図る必要があります。</p> <p>■実施施設を広げるために、実施条件について施設側の声を聞き、保育所が取り組みやすい制度を検証する必要があります。</p>	<p>「A」：計画を上回って実行</p> <p>「B」：計画どおり</p> <p>「C」：目標に達しなかった、計画を実行できなかった</p>
	<p>【利用者保護者アンケート結果から】</p> <p>■サービス全体について利用者の9割が満足していました。</p> <p>■利用の理由は、「仕事」「買物・食事等のリフレッシュ」「病気・出産・通院」が多く、事業の本来の機能が発揮されています。</p> <p>■利用者の9割近くが今後も利用したいとしていることから、今後も必要性が高いと考えられます。</p>	C

事業名	④-2-(4) 24時間型緊急一時保育
担当局・課名	こども青少年局 保育運営課
かがやけ横浜子どもプランでの位置づけ	第1の基本目標 「子育てを地域全体で支援する地域力を創る」 ④多様な保育サービスが充実している。

目標水準・内容等	目標水準		
	H16年度	H17年度実績	H21年度
今後のニーズを見極めながら推進していきます。	2か所	2か所	推進

平成17年度の達成目標	2か所(神奈川区・港南区)
-------------	---------------

行政内部の検証作業による自己評価	計画どおり、2か所の認可保育所において実施しています。	B
	(事業進捗上の課題) ■神奈川区については、1日5名程度の高い利用率となっていますが、港南区については、1日3名程度の利用となっています。緊急時に利用するものであり、交通利便性などの立地が利用者数に影響していると考えられます。 ■市民への周知を強化し、利用促進を図る必要があります。	

【総合評価】

⑤ 事業の達成目標と達成状況、②自己評価の状況、③利用者アンケートの結果を複合的に判断

委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内2か所は少なすぎる。 ○ 利用が少ないのは周知不足ではないか。 ○ 登録者の体験入園などにより、施設・職員へ慣れる機会を設けるとよいのではないかと。
-----------	--

総合 評価	<p>■計画どおり、2か所の認可保育所において実施していますが、次のような課題がありました。</p> <p>(事業進捗上の課題、目標に達しなかった理由・問題点、改善の方向性)</p> <p>■神奈川区については1日5名程度の高い利用率となっていますが、港南区については、1日3名程度の利用となっています。緊急時に利用するものであり、交通利便性などの立地が利用者数に影響していると考えられます。</p> <p>■施設の見学など、事前に利用児童が施設や職員に慣れる機会が求められます。</p> <p>■引き続き、市全体の利用状況等を見極め、安定的な利用者を確保しながら事業を推進するとともに、利用促進を図るため、市民への周知などが必要です。また、ニーズ把握を行い設置数についても検討していくことが望まれます。</p>	<p>「A」：計画を上回って実行</p> <p>「B」：計画どおり</p> <p>「C」：目標に達しなかった、計画を実行できなかった</p>
	<p>【利用者保護者アンケート結果から】</p> <p>■サービス全体について利用者の9割以上が満足していました。また、9割近くが今後も利用したいとしており、高い評価を得ていることが伺えます。</p> <p>■料金については、約半数が妥当としています。高いとしている人も3割を超えています。</p>	B

事業名	④-2-(5) 病児・病後児保育の拡充
担当局・課名	こども青少年局 保育運営課
かがやけ横浜子どもプランでの位置づけ	第1の基本目標 「子育てを地域全体で支援する地域力を創る」 ④多様な保育サービスが充実している。

目標水準・内容等	目標水準		
	H16年度	H17年度実績	H21年度
保護者のニーズが高いため、病児・病後児保育施設の設置推進に努めるとともに、子どもの健康がすぐれない場合の一般の保育所における対応についても、改善に努めます。	7か所	9か所	17か所

平成17年度の達成目標	病児3か所（継続1か所・新規2か所）、病後児6か所（継続6か所） 計 9か所
-------------	---

行政内部の検証作業による自己評価	【病児】 計画どおり3か所で実施しました。（継続1か所・新規2か所） 【病後児】 前年度に引き続き、6か所で実施しました。	B
	（事業進捗上の課題） ■一日の利用者数の平均が、病後児保育では、多い施設で2名程度（定員1か所4名）、少ない施設では1名以下、病児保育では、サービスの開始時期もありますが、多い施設で2.5名程度、開始したばかりの施設では0.5名程度と、ばらつきがあります。利用促進のため市民への周知を図るとともに、今後の整備に当たっては、交通利便性などに考慮し、地域のバランスを確保しながら推進する必要があります。 ■当日キャンセルが多いことなどから、受入定員の弾力的な運用などが事業者より求められています。	

【総合評価】

⑥ 事業の達成目標と達成状況、②自己評価の状況、③利用者アンケートの結果を複合的に判断

委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉保健センターに設置し、保育士が各園から交代で出向く方法は検討できないか。 ○ 希望も多いので、計画を前倒して早期に実施してほしい。 ○ 登録者の体験入園などより、施設・職員へ慣れる機会を設けるとよいのではないか。 ○ このような施設は、利用者数に関係なく確保しておく必要がある。 ○ 病児保育については、保護者の働き方の見直しを図ることが緊急課題。
-----------	--

総合評価	<p>■計画どおり、病児保育を3か所、病後児保育を6か所で実施しましたが、次のような課題がありました。←このコメントは全事業に共通で追加</p> <p>(事業進捗上の課題、目標に達しなかった理由・問題点、改善の方向性)</p> <p>■施設の増、定員の増を求める声が多くあがっていますが、当日キャンセルが多いこと、疾病の流行により一時的にニーズが高まることもあることから、施設の整備を進めるとともに、受入定員の弾力的な運用についても検討する必要があります。</p> <p>■あらかじめ施設の見学ができるなどの広報が必要です。</p> <p>■一日の利用者数(定員1か所4名)が、サービスの開始時期の違いもありますが、2.5名~0.5名程度とばらつきがあります。利用促進のため市民への周知を図るとともに、今後の整備に当たっては、交通利便性などに考慮し、地域のバランスを確保しながら推進する必要があります。</p> <p>■病児保育について、児童の心のケアについても配慮する必要があります。</p> <p>■保護者の働き方の見直しを図ることが課題です。17年11月より実施している企業との懇談会において、企業への働きかけについて進めていただきたい。</p>	<p>「A」：計画を上回って実行</p> <p>「B」：計画どおり</p> <p>「C」：目標に達しなかった、計画を実行できなかった</p>
	<p>【利用者保護者アンケート結果から】</p> <p>■利用者の9割以上が現在のサービスに満足しており、今後も利用したいとしていることから、今後もニーズは高まると考えられます。</p> <p>■料金については、7割近くが妥当としています。高いとしている人も2割を超えています。</p> <p>■今後の希望としては、施設の増、定員の増が多くあがっています。</p>	B

事業名	⑤-3 家庭教育学級開設事業の推進
担当局・課名	教育委員会事務局 生涯学習課
かがやけ横浜子どもプランでの位置づけ	第2の基本目標 「家庭・学校・地域に見守られ子どもが豊かな社会的関係を育む成長空間を創る」 ⑤家庭教育を支援する仕組みができています。

目標水準・内容等	目標水準		
	H16年度	H17年度 実績	H21年度
児童生徒の保護者や地域住民に対し、子どもの発達段階に応じた家庭教育の意義と役割を学習する機会を提供します。	全校 (523校)	全校 (522校)	全校 (517校)

平成17年度の達成目標	<p>全市立学校で実施することにより、家庭教育の重要性を広く、普及・啓発し、家庭教育力の充実を図ります。</p> <p>また、家庭教育学級の質・内容が向上するよう、説明会、PTA研修等で情報提供を行います。</p>
-------------	---

行政内部の検証作業による自己評価	<p>■522校で家庭教育学級を実施 (小：354校、中：146校、高：11校、盲ろう養護：11校)</p> <p>■家庭教育学級の開設にあたり、全PTAを対象にした研修会を開催するとともに、家庭教育学級サポーター養成講座の実施など、効果的な家庭教育学級の開催に向けた支援を行い、保護者の意識の向上、家庭教育の普及・啓発が図れました。</p>	B
	<p>(事業進捗上の課題)</p> <p>■家庭教育学級は、PTAが中心となった運営会が、学校と協力しながら企画・運営しており、全校での実施には、PTAや学校に負担感もあると感じられます。今後事業手法について検討が必要です。今後は、関連団体とも連携し、新たな担い手、実施方法について検討していきます。</p>	

【総合評価】

⑦ 事業の達成目標と達成状況、②自己評価の状況、③利用者アンケートの結果を複合的に判断

委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開催時間の見直しやプログラムの工夫、類似事業を実施している団体との連携など、内容や運営方法について検討してほしい。 ○ 家庭環境が変化する中で、家庭で行われてきた教育をどうしていくか、新しい施策が必要ではないか。
-----------	---

総合評価	<p>■計画どおり全校 522 校で実施されています。(小：354 校、中：146 校、高：11 校、盲ろう養護：11 校)。</p> <p>■学級見学、PTA 研修等において情報提供や意見交換を行い、保護者の意識の向上、家庭教育の普及・啓発を図ることにより、効果的な家庭教育学級が実施されましたが、次のような課題がありました。</p> <p>(事業進捗上の課題、目標に達しなかった理由・問題点、改善の方向性)</p> <p>■講座内容については、講演・講義だけでなく、見学や体験ができるもの、親子で参加できるものが望まれており、テーマについても社会的に関心の高い問題を取り上げるなど、引き続き保護者のニーズにあわせた内容の充実が望まれます。無関心な保護者への働きかけも必要です。</p> <p>■全校での実施は P T A や学校に負担もあり、今後は、市民グループ等との連携、学校外での開催など、新たな担い手、実施方法について検討していく必要があります。</p> <p>■開催日時や一時保育の実施など参加しやすい工夫について検討が必要です。</p>	<p>「A」：計画を上回って実行</p> <p>「B」：計画 どおり</p> <p>「C」：目標に 達しなかった、計画を実行できなかった</p>
	<p>【参加保護者アンケート結果から】</p> <p>■9 割以上が内容に満足しており、ほぼ全員が今後も参加したいとしています。</p> <p>■講座の内容については、講演・講義だけでなく、見学や体験ができるもの、親子で参加できるものが望まれています。</p>	B

事業名	⑥-1、⑦-1 放課後キッズクラブ、はまっ子ふれあいスクール、放課後児童クラブ
担当局・課名	⑧-1 放課後児童育成施策の推進 こども青少年局 放課後児童育成課
かがやけ横浜子どもプランでの位置づけ	第2の基本目標 「家庭・学校・地域に見守られ子どもが豊かな社会的関係を育む「成長空間」を創る」 ⑥子どもの成長に役立つ様々な体験機会が充実している。 ⑦地域の大人たちが子どもたちの成長に関心を持ち、見守り、積極的に支援する仕組みができています。 ⑧学齢期の子どもたちの居場所や活動場所が地域で確保されている。

目標水準・内容等	目標水準		
	H16年度	H17年度実績	H21年度
⑥-1 放課後キッズクラブでは、学校と十分な連携のもとに、学校教育との役割分担を図りながら、成長発達段階に応じたプログラムを提供し、学校教育では得られないような体験を重ねられるようにします。また、はまっ子ふれあいスクール、放課後児童クラブでは、豊富な体験が得られるプログラムの工夫を推進します。	実施	実施	充実
⑦-1 実施にあたっては、地域との関わりを重視し、中学生から高齢者にいたるまで、さまざまな世代の方々との交流の場となるよう活動を充実します。また、放課後児童施策に係わる人材の育成を行います。	実施	実施	充実
⑧-1 放課後キッズクラブ事業の検証結果に基づき、放課後キッズクラブの拡充を図るとともに、放課後児童育成施策全体が安全で快適な居場所につながるよう改善をすすめます。また、保護者が労働等により昼間家庭にいない子どもたちを含めて、すべての子どもたちにとって安全で快適な放課後の居場所づくりを推進します。	横浜市放課後児童育成施策登録者数 94,524人	91,154人	98,673人

平成17年度の達成目標	学校や地域との連携をすすめ、放課後児童育成施策の内容の充実を図ります。 ■放課後キッズクラブ 18か所 ■はまっ子ふれあいスクール 338か所 ■放課後児童クラブ 174か所 ※放課後キッズクラブについては、17年9月に9か所を新規に開設し、全区での実施を図ります。
-------------	--

行政内部の検証作業による自己評価	学校や地域との連携をすすめ、放課後児童育成施策の内容の充実に努めました。 ■放課後キッズクラブ 18か所 ■はまっ子ふれあいスクール 338か所 ■放課後児童クラブ 170か所 ※放課後キッズクラブについては、17年9月に9か所を新規に開設し、16年度までに開設した9か所とあわせ全区での実施となりました。	B
	(事業進捗上の課題) ■プレイパークなどを活用した特別体験活動の推進と放課後の居場所のネットワークづくりを進める必要があります。 ■さまざまな体験や食育などを取り入れ、低学年から高学年の児童まで楽しめるよう、プログラムを充実させていく必要があります。 ■保護者のニーズが高まり、利用児童が増えていることから、スタッフの増員など運営体制を強化するとともに、時間延長についても検討する必要があります。 ■施設・設備の充実についても、教育委員会と連携しながら検討していく必要があります。	

【総合評価】

⑧ 事業の達成目標と達成状況、②自己評価の状況、③利用者アンケートの結果を複合的に判断

委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ○留守家庭児童の安全確保と生活の場としての充実を図ってほしい。 ○地域の世代間交流、人材の活用を図り充実してほしい。 ○公園や校庭を活用して進めてほしい。 ○もっと学校との連携が必要である。 ○時間延長については、保育所では実施されており充実が望まれるが、子どもとのふれあいの時間を減らす側面もある。 ○利用者（児童・保護者）の満足度は高いようだが、現場スタッフ（指導員等）の負担は非常に大きいと聞いている。保護者が望む「プログラムの充実」、「安全性の確保」を実現するためにも、スタッフの質・量ともに拡充策が必要である。
-----------	---

総合評価	<p>■計画どおり、学校や地域との連携を進めながら、放課後児童育成施策の充実に取り組んでいますが、次のような課題がありました。 放課後キッズクラブについては、17年9月に9か所を新規に新設し、全区で実施されています。(放課後キッズクラブ18か所、はまっ子ふれあいスクール338か所、放課後児童クラブ170か所)</p> <p>(事業進捗上の課題、目標に達しなかった理由・問題点、改善の方向性)</p> <p>■保護者のニーズが高まり、利用児童が増えていることから、スタッフの増員など運営体制を強化するとともに、時間延長についても検討する必要があります。</p> <p>■地域との交流、地域人材の活用を図るため、プログラムの作成にあたって地域の方へ協力を依頼するほか、地域活動への参加、学校外での活動などの工夫が必要です。</p> <p>■施設・設備の充実についても、教育委員会と連携しながら検討していく必要があります。</p> <p>■利用者のニーズを踏まえ、引き続き、「充実型」への移行を進めるとともに、プレイパークを活用した特別体験活動の推進や、食育などを取り入れたプログラムの充実、安全面への十分な対策が望まれます。</p>	<p>「A」：計画を上回って実行</p> <p>「B」：計画 どおり</p> <p>「C」：目標に 達しなかった、計画を実行できなかった</p>
	<p>【放課後キッズクラブ開設校の児童・保護者を対象としたアンケート結果から】</p> <p>■児童の満足度は高く、保護者からも高い評価を得ています。</p> <p>■保護者が今後望むこととしては、プログラムの充実と、安全性の確保について多くあがっています。</p> <p>【はまっ子ふれあいスクール利用児童保護者を対象としたアンケート結果から】</p> <p>■はまっ子ふれあいスクールが「充実型」になったことについては、6割以上が満足していました。</p> <p>■17時以降の利用登録をしていない児童が8割以上いますが、そのうち3割以上が将来的には利用したいとしています。</p>	B

事業名	⑥-2 プレイパークの設置の推進 ⑧-2 プレイパークの設置の推進
担当局・課名	こども青少年局 青少年育成課
かがやけ横浜子どもプランでの位置づけ	第2の基本目標 「家庭・学校・地域に見守られ子どもが豊かな社会的関係を育む「成長空間」を創る」 ⑥子どもの成長に役立つ様々な体験機会が充実している。 ⑧学齢期の子どもたちの居場所や活動場所が地域で確保されている。

目標水準・内容等	目標水準		
	H16年度	H17年度実績	H21年度
⑥-2 管理運営主体の設立や、子どもの見守りや交流を促進するプレイリーダーを育成し、様々な体験をしながら遊ぶ中で、社会性を育てる場としての、プレイパークの設置を推進します。	推進	推進	推進
⑧-2 子どもたちが、自己責任により「自由な遊び」を行うことにより、子どもの健全育成を目的としたプレイパーク(*)の設置を推進します。そのために、管理運営主体の醸成を支援し、プレイリーダー(*)の育成を行います。	推進	推進	推進

平成17年度の達成目標	<p>市内の公園等で、地域の方々が自主的に取り組む「子どもの自由な遊びの活動」を支援するため、子どもの遊びの見守りやパートナーとなる「遊びのボランティア」(プレイリーダー)を育成します。</p> <p>(1) 遊びのボランティア育成研修 【定員】50人 【研修内容】講義、プレイパークで実習 【事後研修】10月秋休み予定</p> <p>(2) 活動のコーディネート (財)横浜市青少年育成協会から研修修了者へ、遊びのボランティアを求める団体やプレイパークの活動の情報を提供するなど、研修後の活動を支援します。</p>
-------------	--

行政内部の検証作業による自己評価	<p>■ 7～8月にかけて、「遊びのボランティア育成研修」を実施しました。(43人参加)</p> <p>■ 9月に「遊びのボランティア・ステップアップ研修」を実施しました。(24人参加)</p> <p>■ ボランティアに関する情報をメールにより提供しています。(今年度研修修了者のうち、希望者12人)</p>	B
	<p>(事業進捗上の課題)</p> <p>■ 研修はプレイリーダー育成に限らず、子どもの遊びをサポートするボランティアの育成をねらいとしたものであること、研修後の活動のコーディネートの、子ども・青少年に関わるボランティア情報の提供が中心だったことから、修了者からプレイリーダーへとつながりにくい状況があります。</p>	

【総合評価】

⑨ 事業の達成目標と達成状況、②自己評価の状況、③利用者アンケートの結果を複合的に判断

委員からの主な意見	<p>○数、内容ともに充実してほしい。</p> <p>○公園や校庭を活用して進めてほしい。</p> <p>○青少年指導員、ジュニアリーダー、児童委員、ボランティア、PTAなど、地域人材の活用を図るべき。</p>
-----------	---

総合評価	<p>■ 7～8月にかけて、「遊びのボランティア育成研修」を実施しました。 (43人参加)</p> <p>■ 9月に「遊びのボランティア・ステップアップ研修」を実施しました。 (24人参加)</p> <p>■ ボランティアに関する情報をメールにより提供しています。 (今年度研修修了者のうち、希望者12人)</p> <p>計画通り実施しましたが、次のような課題がありました。←このコメントは全事業に共通で追加</p> <p>(事業進捗上の課題、目標に達しなかった理由・問題点、改善の方向性)</p> <p>■ 18年度より市内プレイパークの連合組織であるNPO法人に補助金を交付し、プレイリーダーの雇用やプレイパークの広報活動への支援を実施しています。現在7か所にプレイリーダーを派遣し、定期的な活動回数が増えていることから、引き続き活動団体との連携を図りながら、拡充に取り組むことが望まれます。</p> <p>■ 「遊びのボランティア研修」「ステップアップ研修」の実施や、修了者へのボランティア情報の提供など、人材育成への取り組みが進められていますが、研修はプレイリーダー育成に限らず、子どもの遊びをサポートするボランティアの育成をねらいとしたものであること、研修後の活動のコーディネートも、子ども・青少年に関わるボランティア情報の提供が中心だったことから、修了者からプレイリーダーへとつながりにくい状況がありました。プレイリーダー育成に特化した研修の実施や、修了後の活動場所の紹介などによりプレイリーダーの育成を進めることが望まれます。</p> <p>■ 青少年指導員をはじめとする地域人材の活用を図っていく必要があります。</p> <p>■ 多くの児童が利用できるよう、引き続き整備を進めることが望まれます。</p>	<p>「A」：計画を上回って実行</p> <p>「B」：計画 どおり</p> <p>「C」：目標に 達しなかった、計画を実行できなかった</p>
	<p>【児童・利用者保護者を対象としたアンケート結果から】</p> <p>■ 児童、保護者ともに約6割がプレイパークを肯定的に捉えていました。</p> <p>■ プレイリーダーについては、安心感を与える存在、遊びの達人として評価されており、8割以上が必要性を感じていました。</p>	B